



あじさいネット OFF LINE 通信

vol. 9



「釣りの醍醐味」 写真提供：横山 博明 先生(長崎労災病院 院長)

目次

年頭所感	あじさいネット会長	小尾 重厚	先生	2
会員様の声				
南野病院		南野 淳	先生	3
山根内科胃腸科医院		山根 豊	先生	4
むかい医院		迎 徹	先生	5
長崎中央調剤薬局		高木 由美	先生	6
情報提供病院のご紹介				
佐世保共済病院	地域医療連携室			7
長崎労災病院	地域医療連携室			8
平成 25 年度	総会報告			9
会員の皆様へお知らせ				10

現在の運用状況

(平成 25 年 12 月 15 日現在)

患者登録数	32,069 名
(全件あじさいネット説明同意書取得済み)	
会員数	387 名
情報閲覧施設数	211 施設
(内、薬局数 36)	
情報提供病院数	22 施設

賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株) 医療ソリューション事業部
- 三菱化学メディエンス(株)
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ 公共システム事業本部
- 山下医科器械 (株)

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

あじさいネット会長 小尾 重厚 先生

「発足から十年、新たな展望を切り拓いていく」



NPO 法人
長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会会長

小尾 重厚 先生

■大村市医師会会長

■医療法人 おび産婦人科医院 院長

で長崎県下がつながったからこそ出来るシステムです。妊婦の救急搬送時に有効ですし、蓄積されました貴重なデータは、将来の医療に大きく寄与するものと考えています。

あじさいネットは発足十年目にはいりました。理念にあります『医療の質を高める』『患者さんの医療の安全性を高める』基礎はできましたので、今は展望が拓けていく運営を目指していきたいと考えています。

社会の動向とあじさいネット

— 新たな段階へ —
去年は、あじさいネットの新たな機能が動き始めた年でした。あじさいネットのインフラを利用して、TV会議システム、離島・救急医療支援システムが始まり、県央地域では糖尿病疾病管理システムも始まりました。

今年、在宅医療の『多職種連携』が重要なテーマです。様々な職種の方が携わる在宅医療で、あじさいネットを機能良く使えるツールにしていくため、今年は secure メールといった機能を追加を予定しています。

また、周産期システム構築も予定されています。これは、あじさいネット

ういった意味からも、あじさいネットは先駆的モデルですから、今後、慎重に発展、継続させていく役目を負っていると考えています。

セキュリティを第一に

あじさいネットでは、一番心掛けている点はセキュリティ面です。何か一つでも問題が発生するとシステムは頓挫してしまう、そういった危うさを回避するために、あじさいネットのセキュリティは他のネットワークと較べより厳しくしています。会員の方からはパスワードの更新期間の延長といった要望をたくさんいただきますが、強固なセキュリティ維持が第一ですので、運営委員会では慎重に検討を重ねています。

セキュリティにはハード面とソフト面があります。ハード面はいうまでもなく重要で、NTTデータを始めとするメーカーの方々が守ってくれています。では、ソフト面をどう守っていくかを考える際、運営していくのは我々人で人がシステムを動かすわけだから、ソフト面の取り扱いには特に重要になってきます。

【セキュリティ】、【安全性】という言葉だけが先走りしないように、その意味をきちんと理解することが重要です。

諸々の懸案事項について、運営委員会でも議論していくと、これは絶対危ないなといった話がでてきます。具体的に踏み込んで、例えば、どう

いった類の人が、こういった目的で診療情報を悪用するかもしれないと想定が必要です。懸念される事案を分かっているないと、セキュリティをかけようがないですから、そういった具体的な話を詰めた上で、セキュリティ対策を取り決めていきます。

同意書も大事です。代理署名は二親等までに制限していますが、これは制限を緩和拡大した場合、仮に悪意のある親戚にとって医療情報は大変貴重ですから、問題が発生することも考えられます。同意書を正しく頂くことは、そういった面からも重要です。

● あじさいネットへの想い ●

発足して十年たちました。あじさいネットは、全国から非常に注目を浴びている医療連携ネットワークでもありますので、大事に育てたいと思っています。今、小学校高学年、義務教育終わるくらいかな。あじさいネットへの想いは、子供を見る親の眼みたいなものです。大事に大事に育てたい。運営委員会のメンバーも皆同じ想いです。



『信頼と信頼でつながるシステム』を共通認識として皆が持つことが大事



・ DOCTOR'S PROFILE ・

H 2 年 福岡大学医学部卒
 H11 年 2 月 南野病院 副院長
 H23 年 12 月 南野病院 院長
 H16 年 あじさいネット設立当初に入会

■大村市医師会理事
 ■あじさいネット運営委員会 委員

一貫した治療方針で継続した治療を
 当院は、慢性期の病気や急性期治療を終えた患者さんの受け入れが多く、国立長崎医療センターと市立大村市民病院からの紹介による入院療養が主体です。継続した治療のためには、拠点病院との情報共有は非常に貴重です。

地域の中で一貫した治療や説明を受けられる環境は、患者さんに安心と安全と満足を提供する上で重要です。

あじさいネットを利用すると、診療情報提供書よりもより深く経緯や治療内容が把握できますので、拠点病院での主治医の治療方針を踏まえた継続性のある診療を実践しています。

あじさいネットを通して、患者さんへの説明の細かなニュアンスといった記載も参考にしています。

また、医学は日進月歩で進化していますので、あじさいネットを通して拠点病院での最新の治療法について慢性疾患を中心に学んでいます。

大村市東三城町
南野病院

みなみの あつし
南野 淳 先生

TEL : 0957-54-8800 E-mail:minamino@trad.ocn.ne.jp

●信頼と信頼でつながるネットワークを保持しながら変わっていくこと●

あじさいネットを利用した医療情報共有の根底には、システムと人への『信頼』があり、『信頼』に応える責務を果たす上での適切な運用は必須です。運営委員会でも、あじさいネットを『信頼と信頼でつながるシステム』として今後も発展させていくために、適切な運用を遵守するモチベーションをどう維持するかはよく議論になります。

一番大事なことは、**情報提供病院が我々(関覧側)を『信頼』してカルテ内容を見せてくれること**に依ることです。会員のITの知識は千差万別ですが、最低限守らないといけないあじさいネットのセキュリティルールの厳守する態度が、システムが大きくなればなるほど大事で、それが『信頼』に応えることになると思います。

当院は、院内でチーム医療に取り組んでいます。チームの完成度を上げる観点からは今の状態に満足する事は絶対あつてはならないと思っています。若手は勉強してレベルを上げる、ベテランは自己研鑽してステップアップしていく、そうして初めて病院全体の質を一定の水準に保つことができます。変わる努力をしなかったら、時代は変わっていきますから、自分たちの立ち位置は遅れていく恰好になります。

IT分野もそうだと思います。時代に合わせる時には根本からでも変えていかないと発展していかないと思います。あじさいネットも一番基本になるところ『人と人との信頼』を残しながら、これまでやってきたように変

わっていくべきだと思いますし、変わらなかったらおそらく先細りになってしまおうのだと思います。

あじさいネットのこれから

今年八月、佐世保地区に続いてあじさいネットに健康保険諫早総合病院が新たに入会しました。今後、県央地区でつながりをもった医療ができればと思います。

当院は県内広域、隣接県からも患者さんを受け入れています。このため、あじさいネットが広域化したことは大変有難く診療の質向上に役立つものと思います。

大村地域はあじさいネット発足の地ですので、病診連携についての利用は定着してきましたので、今、訪問看護での利用の試みがなされています。あじさいネットというITツールを今後も上手に地域包括ケアに繋げていければと考えています。

南野先生に伺いました！

Q. 好きな言葉

A. 「一步一步」。

出来ることを一步一步。何事も準備が大事です。準備を十分した上で、例え最初の結果が50%でも、次の機会に100%を目指せばいい。リハビリをされる患者さんにも同じ想いで診療しています。

Q. 南野先生にとって緩和ケアの在り方とは？

A. 病院内をどんなにプライバシーに配慮した療養環境に整えても、常時誰か入ってきたり、廊下からはキャストの音が聞こえたりします。心からリラックスできる場所は、他人が入ってこないご自宅だと思います。だんだん状態が低下される患者さんにとってご自宅で家族に囲まれて、好きな時間に寝て、好きな時間に起きる、好きな物だけ食べる、といった環境に居ることは、病院にいるよりずっと幸せだと思います。実際、一人暮らしであったり、看護する家族も病気がちであったりと、自宅療養をしたくても断念される方もいらっしゃいますが、当院は最期の場所の選択としては二番目の場所であってほしい。だから、患者さんと家族には緩和ケア病棟に入院される際に、「ここにずっとおらんでもいいよ。帰りたかったら帰れるように準備をしましょうね。」とお話します。

あじさいネットは日常の診療時に加え『開放型病床』利用時にも有効です。

情報処理委員会としては、ほぼ長崎市全域で利用できる環境を整えましたが、当初、アンケートで入会希望の意向がありました。会員数には届いていません。充分利用価値はありますから、もっと入会して利用してほしいですね。

まず長崎市医師会会員と、会員が普段から連携している地域の拠点病院にアンケートや説明会を積み重ね、平成二十一年、長崎市医師会があじさいネットへ入会した年に、長崎大学病院、光晴会病院、十善会病院、日赤長崎原爆病院、長崎市立市民病院が運用開始となりました。その後、順次、他の拠点病院も運用開始となりました。

長崎市医師会が入会を検討していた当時から



・ DOCTOR'S PROFILE ・

S59年 長崎大学医学部卒
 H3年 継承開業、H21年より現在地に移転
 H21年よりあじさいネット会員
 ■長崎市医師会 情報処理委員会 委員長
 ■長崎在宅Dr. ネット理事

長崎市幸町

山根内科胃腸科医院

やまね

ゆたか

山根 豊 先生

TEL : 095-823-6769

『開放型病床』等の利用時にも有効です。消化器内科を専門としているため、日常診療では消化器系の手術歴の確認や術後のフォローであじさいネットを利用します。

また、他院で診療をする、開放型病床を利用するなどの際にも有効です。例えば、当院で発見した大腸ポリープを後日、私が光晴会病院に赴き切除をしています。患者さんには術後、二泊三日入院して頂きますが、あじさいネットを通じて入院中の様子を自院から見守っています。その後、地域医療連携室から病理結果が正式に送られてくる時期に合わせて患者さんに来院して頂き、私が光晴会病院で行った内視鏡検査の写真を再度一緒に見てもいいながら「このポリープを切ったらこういう結果になりましたよ。」と病理結果の説明をしています。

自分が必要とする連携システムをセレクトすることが重要です。

最近『連携』をキーワードとしたシステムが多くなりました。皆にとって有意義なシステムが出来ることはいいことですが、その中で本当に自分に必要な連携システムを選ばなければなりません。医療をいい方向に持っていくには、誰かと誰かが繋がって協力する『連携』が重要です。人と人の繋がりが『連携』で、システムはそのツールにすぎませんので、自分に必要なもの以外は参加しても役に立ちません。その点あじさいネットは連携に欠かせないツールです。

長崎在宅Dr. ネットとあじさいネット
 私は、長崎在宅Dr. ネットの理事をして

●● 山根先生に是非伺いたかったこと ●●

—山根先生は下村脩博士の甥御さんでいらっしゃるようです。—

Q. オワンクラゲ採取を手伝ったと伺いました。お幾つの時ですか？

A. 中学二年生の時です。あの当時1ドル300円くらいかな。叔父夫婦から「遊びにおいで！」と言われて、休みを利用して一人渡米しました。フライデーハーバーでオワンクラゲ採取を手伝いました。勿論、クラゲ取り目的に行ったわけではないので、他にも色々楽しい思い出がありますよ。

Q. ノーベル賞授賞式にもゲストとして出席されたとの事、すごいですね。何かエピソードとかありますか？

A. 私がすごいわけじゃないから(笑)。ストックホルムでのノーベル賞授賞式へゲストとして出席する事は、宝くじに当たるよりもすごい事、それは光栄なことですよ。家族で赴き、私は前から二列目の席でした。

*下村脩博士：H20年ノーベル化学賞を受賞。博士がオワンクラゲから発見した蛍光タンパク質は世界中の幅広い分野で活用されています。博士は、H21年長崎大学名誉博士称号第一号を授与されています。

います。在宅医療を円滑に行うためには、医師を始めとする医療関係者がお互いに連携し補完し合いたいと上手くいけません。「在宅Dr. ネット」は、この連携の根幹となるシステムで、「あじさいネット」は連携の中で情報交換する際の優秀なツールです。ですから、あじさいネットがこれからも現場の診療にあつた必須のツールとして成長していくことに期待しています。

座右の銘を教えてください！
 あまり考えたことがないです。型にはまる必要はないと思っています。
 『しなやかに軽やかに診療したい。』座右の銘はこのような掲げてほしいのかもしれないけれど、掲げなくても日々のことを普通にやればいいと思っ

あじさいネットは地域密着型の診療所であっても、現場の最新医療が学べる機会



入会のきっかけ

・ DOCTOR'S PROFILE ・

S57年 久留米大学医学部卒
H4年 むかい医院継承
H24年よりあじさいネット会員

佐世保市医師会があじさいネットに医師会として入会を検討していた頃、訪問看護ステーションの理事をしていたのもあり入会しました。従来から佐世保中央病院が運用されておられた医療連携ITネットワーク《メデイカルネット99》を有効利用されている先生もおられる中、当院は、電子カルテでありませし、パソコンも置いていない状況でしたが、ITを使いこなせていなかった私でもこれぐらい出来ませよ、という動機づけになればと思ったことがあじさいネットに入会したきっかけの一つです。

紹介患者のバックアップに利用

私はそんなにあじさいネットのヘビーユーザーではないんです。でも、紹介した患者さんをフォローアップする意味では非常に役立っています。かかりつけ医はどこも地域密着型であり万相談所です。『風邪をひいた』、『血圧が高い』といったどんな病状でもとりあえずまずかかりつけ医に来院されます。

佐世保市若葉町 むかい医院 迎 徹 先生

TEL : 0956-31-8573

当院は、父がこの地に開業し、継承していただきますから、患者さんの中には私が子供だった頃から知っている方がたくさんいます。患者さんの中には、昔馴染みの私には話しやすくても、拠点病院には行きたがらない方や、紹介された拠点病院では非常に緊張されて主治医から病気について説明を受けても、理解出来ずに『一応聞いた程度』で当院に戻って来られる方も多くいます。悪性の検査結果ですとなおさらです。

そういった患者さんと向き合って、あじさいネットを利用して、拠点病院の検査結果等と一緒に振り返り、拠点病院の主治医の説明の補足、追加説明をしています。「私が紹介して、診てもらいたかったところはここですよ。」とか「こういう状況だから今からこんな治療になるからね。」といったお話をします。拠点病院で質問したくても出来なかった事を相談されることも多いですので、そういった際にもあじさいネットは有効なツールだと思います。

― 現場の最新医療を学べる機会 ―

今、医療はどんどん進んでいます。だまつて自分の診療所にいると、最新の医療においていかれてしまいます。研究会、学会に参加することも、自己研鑽は勿論出来ませんが、あじさいネットを通してだと、今現在、拠点病院のドクターたちが「ある病気に対してどのような見解を持っているか」とか「こういう治療が出来ます」といったことも学べます。最新の医療の現場を実際に学べるから、医療の質を高めるチャンスにもなります。

迎先生の仕事の流儀

- 患者さんには ●● 不安や辛い気持ちで来院されるので、帰る時には少しでも安心なり楽になった気持ちで帰ってもらうこと。
そして当院が受け入れる範囲を判断し、二次病院や専門の病院にご紹介しなくてはいけないタイミングを逃さないこと。
- 自分の診療に対して ●● 予期せぬことが起こっても慌てずに、自分の能力の及ぶ範囲内で出来る限りのことをする。
- 職員さんたちに対して ●● 輪を持って、受付も含めチームとして仕事をする。私は外科出身ですが、手術は、執刀医、第一助手、第二助手、看護師のチーム医療です。患者さんは『この先生が私の手術をしてくれた』と思いますが、実際はチームで行っています。そういった外科医時代に教えられた意識を持って日常の診療に取り組んでいます。



今後の県北での展開についてお聞かせください。
徐々には増えていますが、より使い易いシステムである必要があると思います。今後、ITネットワークはどのような分野でも重要になってくることは明白ですが、ユーザーにとってより利便性の高いシステムであることが、発展していく鍵だと思います。
また佐世保は、長崎県内各地と物理的距離がありますので、テレビ会議を活発に利用できればと思います。テレビ会議等で長崎県内の他地域とのコミュニケーションが密になっていければと考えています。

入会から6年。少しずつ「あじさいネット」の活用の幅を拡げてきました。



● 高木 由美 先生 PROFILE ●

H 6年 長崎大学薬学部卒
 H19年よりあじさいネット会員
 ■大村東彼薬剤師会 会営薬局 管理者
 薬局として初めてあじさいネットに参加

不安と期待が入り混じった入会時でした。

お隣の長崎医療センターから、当時の大村東彼薬剤師会の会長をされておられた諏訪敏幸先生に、あじさいネット入会のお話がありました。当薬局は、大村東彼薬剤師会営ですから是非とも参加しようということで入会しました。

当初は、『どういったものかな?』『うまく使えるかな?』という不安と、データ、カルテ、ドクターのお話を服薬指導に活かせる期待がありました。病院勤務の薬剤師は、服薬指導の際は事前にカルテを見ることは前提だと思えます。私は薬局しか勤めたことがなく、そういった経験がありませんでしたので、どういったふうに使っていいかを考えました。

また、医療連携ネットワークに薬剤師が一緒に参加する事例は全国的にも珍しいと伺っていましたので、本当に上手く続けていけるか不安もありましたが、利用事例を少しずつ積み重ねてくる事ができました。続けることが出来て本当に良かったなと思います。

大村市久原 長崎中央調剤薬局 高木 由美 先生

TEL : 0957-53-9301 E-mail:nagachu@lagoon.ocn.ne.jp

あじさいネットの一番のメリットは、主治医がどういったお話をされて、新しい薬が出たか、変わったかが分かるので、的確な服薬指導ができることです。患者さんの安心感も増しますし、私たちも安心して説明が出来ます。

■ 日常のあじさいネット事例 ■

複数の科を受診されている患者さんで、来局時、一つの科の処方箋しか持ってこられていない状況で、他の科で服用しているお薬がはつきりしない時がありました。そのような時は、あじさいネットの同意をいただいで、科毎の服用している薬を確認する事もあります。

また、あじさいネットは十五分程で手続きが完了しますので「ちよつと外出してくっけん。」とお買い物に行かれる患者さんもいらつしやいます。

最近、在宅医療を初めて経験しました。緩和ケアの患者さんで、長崎医療センターを退院後、個人病院に移られて、その後、在宅医療に移行し、在宅薬剤師として参加しました。訪問できない期間の様子は、あじさいネット上に訪問看護師が記録したメモを通して知ることができました。メモには、介護内容の記載もあり、気を配らないといけない点も知ることが出来ました。あじさいネットというツールを利用すると、必要な診療情報をいつでも見たい時に見ることが出来、文書のやり取りと比べ手間がすごく省けます。こういう使い方もあるんだなと実感しました。本当に短い間でしたが、すごい経験をさせてもらいました。



若手から中堅までフレッシュなメンバーで服薬指導にあたっています!

●●日々の仕事は親身になって対応●●

もし自分だったら、自分の親だったら、自分の子供だったらと考えて、親身に対応していきたいと思っています。医療センターの門前薬局なので、どうしても患者さんがたくさんいらつしやいます。機械的にならないよう、迅速かつ親身な対応をいつも心掛けています。

今後のあじさいネットの活用法として

長崎医療センターの門前薬局ですので、抗がん剤治療をされている方が多くいらつしやいます。今後は、薬薬連携にあじさいネットを活用できたらと思っています。

抗がん剤治療の処方箋を持って来られる方の多くは、院内で何日間か服用し、退院後も服用を継続されるので、長崎医療センターの薬剤師さんと私たち薬局の薬剤師が連携して、外来の治療を上手く継続していく上でのサポートが出来たらと考えています。

抗がん剤治療をされている方の中には、通院で点滴治療をしながら日々内服をしたり、処方箋には便秘の薬だけ載ってきているけど、実際は抗がん剤治療の副作用止めのケースもあります。

あじさいネットを通して、院内でどういった治療を受けてきたのが詳細に把握出来れば、質の高い服薬指導に活かせると思います。

情報提供病院のご紹介

佐世保共済病院 地域医療連携室

佐世保共済病院は、平成24年11月に診療情報提供をスタートしました。

「博愛の精神、人の和、自己研鑽」を基本理念としています。

きでら よしろう

◆◆ Message / 木寺 義郎 病院長 ◆◆

地域全体で救急医療体制の構築を

佐世保市では、地域全体でより良い救急医療体制構築のために、医療機関の機能分化に取り組んでいます。その取り組みの一環として、当院では昨年七月より、急病診療所が閉診している時間帯に、初期救急医療を開始しました。これは、佐世保市立総合病院救命救急センターでの三次救急受け入れに伴い、初期医療の一旦を当院でも受け入れる、佐世保市のモデル事業です。

七、九月まで、熱中症の患者さんが多く来院されました。初期医療（ウォークイン）では診断・基本方針治療を施した後、翌日は近隣の開業医の先生への受診を勧めていますが、開業医の先生方が受け入れた患者さんを診る際に、あじさいネットを利用された事例が少なくありませんでした。

このモデル事業は今年三月までですが、救急医療の機能分化の面で役立っていますので、今後は、二次救急を主体としつつ、初期救急の一旦も担いながら柔軟に、佐世保市の救急医療に貢献できたらと考えております。



DOCTOR'S PROFILE

S45年 九州大学医学部卒
専門：産婦人科
■H20年より現職

地域医療連携の取り組み

『周産期医療での医療連携にも積極的に取り組んでいます。』

地域の医療機関が協力して、妊婦さんが赤ちゃんを安心して生んで育てられる環境作りは大切です。佐世保市では、佐世保市立総合病院と当院とで周産期の機能分化を図り、佐世保・長崎県北の妊婦さんは地域で受け入れる体制作りをしてきました。

また、当院は地域医療支援病院でもありませんので、地域の診療所・病院の先生方とより緊密に連携を深めていきたいと考えています。そのため、様々な医療連携の場面で、あじさいネットを有効に活用し、地域医療に貢献するためのツールにできればと思います。今後、拠点病院同士の情報交換が実現すれば、二重検査も不要になりますから、病病連携にも期待しています。

●●地域と共に歩んでいく●●

地域の中で、医療サービスの面で貢献するとともに、地域の方々との交流を大切にしています。地域のイベントには積極的に参加し、〈させぼポートフェスティバル〉では日頃の練習の成果を発揮したり、〈24時間えぼしたすきりレー〉では大会救護班としても大会を見守ります。当院は、商店街の近くですので、商工会組合の方とも交流の機会も多く持っています。また、米海軍佐世保診療所とは英会話レッスンなどを通して友好を深めるとともに、佐世保基地の活動に携わる人々に思い遣りのある医療を提供しています。このように地域とともに歩んでいきながら、今後も地域医療を守っていききたいと思っています。

●地域医療連携室より

〈診療所の先生方へ〉

土日（祝）や時間外（十七時半以降）の同意書登録などの運用ができていない状況ですので、頂いた方は翌業務日の処理になりますので、よろしく願いいたします。

〈あじさいネットへの要望〉

患者さんの治療を進めるために他の急性期病院へ情報提供を依頼することがありますので、あじさいネットによる病病連携が実現できればと思います。

〈不具合時の対応〉

特に不具合が生じたことはありませんが、システムについては情報システム課より富士通のシステム担当者に相談してもらっています。

①地域医療連携室窓口



当連携室では看護師、MSW、事務が団結して地域の先生方らのご紹介やご相談に対応しております。また状態が落ち着いた患者さんをスムーズに転院や在宅・施設への入所支援なども積極的に行っております。今後、当院と地域の先生方がより身近になるように連携室としても様々な取り組みを検討していきたいと思っています。

情報提供病院のご紹介

長崎労災病院 地域医療連携室

長崎労災病院は、平成 25 年 5 月に診療情報提供をスタートしました。

基本理念として「私たちは、働く人々と地域の皆様に安全で質の高い医療を提供するため最善を尽くします。」を掲げています。

よこやま ひろあき

◆◆ Message / 横山 博明 院長 ◆◆



DOCTOR'S PROFILE

S48 年 長崎大学医学部卒
 専門：脳神経外科
 ■H21 年より現職

島からですと、大体十五分程で到着します。県北地域方面からは救急車搬送に加え、平戸・松浦など離島を含む地域からドクターヘリ搬送も多く受け入れています。平戸市生月

当院は、佐世保市の拠点病院の内、最北に位置しているため、佐世保市内は元より県北の平戸市、松浦市や隣接する佐賀県の伊万里、有田方面からの患者さんが多くみえられています。

県北地域の『北の砦』として、より緊密な地域完結型医療体制を、

また、地域医療連携室の体制も徐々に強化し、前方、後方連携を密にするための機能性を高めています。

当院では、長崎労災病院医療機関懇談会を定期的に開催して、近隣のドクターに来て頂き、医師の専門分野の紹介や当院での様々な取組みを紹介、意見交換しています。整形外科では週一回、佐世保市内の整形外科の先生方にお集まりいただき勉強会を開催しています。

より円滑な地域医療を目指して

当院では、曜日毎にドクターヘリ対応の医師を決め、搬送後は担当科で速やかに対応できるようにしています。

県北地域方面からの患者さん、特に『整形外科、外科、脳外科、心筋梗塞』は、当院で対応したいと考えています。

県北地域方面からは、医療機関不足もあり多くの整形外科の患者さんを受け入れております。例を挙げますと、大腿骨近位部骨折の手術は年間約三百症例行っていますが、月曜日になると、土日、怪我をして他院に入院していた患者さんの手術依頼が四、五件集中することも珍しくありません。その半分以上は伊万里、平戸、松浦といった北部方面からの紹介です。当院ではかなり多くの大腿骨近位部骨折の手術を行っています。術後早期よりリハビリを開始し、地域の医療機関へリハビリ継続のための転院を受け入れていただいていますので、スムーズな後方連携が実践出来ていると思います。

あじさいネットを利用して、当院の診療内容を紹介元の医療機関でもっと利用してもらえれば、緊密な後方連携を更に補完してくれると考えています。

当院では、脳卒中に力を入れています。医療機関・救急隊からの脳卒中相談を二十四時間受け付けており、当院の脳神経外科医がホットラインを携帯し、直ちに対応できるようにしています。

佐世保市内のあじさいネット閲覧施設数は増えてきていますが、県北方面はまだ少ないので、今後増えていく事に期待しています。



地域医療連携室の皆さん

長崎労災病院に登録されている連携医療機関名掲載マップの前にて
 当院の使命は、『勤労者医療と地域医療』です。連携医療機関には152が登録されています（H25年12月現在）。登録医とも密に連絡を取り、逆紹介を通して地域完結型の医療を目指しています。

● 地域医療連携室より

《あじさいネット登録作業について》

あじさいネットの登録作業は、前方連携を担当している事務員三名で行っています。大体十五分弱で登録作業は完了しています。

《システムについて》

現在に至るまで大きなトラブルはありません。不具合が起こった際は、SECの方へすぐ連絡をしています。早急に対応して頂いています。

《診療所の先生方へ》

記載漏れもなくご記入頂いており、助かっています。《あじさいネットへの要望》

当院は連携をとっている病院が北部地域方面に多いので、北部地域方面の先生方との連携があじさいネットを通じて、もっと緊密にできればと思います。



会員の皆様へお知らせ



●● 患者さまの診療情報の保管について ●●

あじさいネット上で、診療所や薬局等から診療情報の入力が可能となりました。これにより情報提供病院以外からの診療情報も共有できることになります。

なお、入力された診療情報は、あじさいネットデータセンター（広島県）にて保管いたします。この方式により24時間365日、高セキュリティな環境下で安全に診療情報を守ることができます。

- ① 診療所や薬局等から診療情報を入力するにあたり下記内容を医療機関内に掲示しておく必要があります。つきましては、貴所の個人情報の取り扱いを記した掲示物に、以下の内容を掲載願います。（包括的同意）

○追記掲載して頂きたい内容○

『あじさいネットに同意されました患者さまの診療情報は、国内の信頼性の高いデータセンターにて厳重に保管されます。』

- ② データセンターへの保管に伴い、あじさいネット参加同意説明書に下記文言を追加しております。「3.(3) あじさいネット参加医療機関より登録された情報は、あじさいネットのデータセンター（広島県）にて、安全に保管されます。」

従来の同意書をご利用の会員の方は、HPより上記の文言が追加掲載されました同意書をダウンロードしてご利用をお願いします。

●● 閲覧有効期限の延長のお知らせ ●●

平成25年10月5日より閲覧有効期限を13ヶ月間に延長いたしました。尚、閲覧権限は、閲覧有効期限までに閲覧があればその日よりさらに13ヶ月間自動延長されます。

●● 看護師の正式入会について ●●

平成25年8月26日に開催されましたあじさいネット臨時理事会で、訪問看護師の入会が正式に認められました。つきましては、訪問看護師向け【あじさいネット同意書】をHPに掲載しております。ダウンロードしてご利用ください。

●● 学会発表等での利用について ●●

あじさいネットについて学会、研究会で発表する際は、あじさいネット画面データ利用申請書（学会・研究会での利用申請）をHPに掲載しておりますので、必要事項を記入の上、事務局に郵送してください。本申請書は、あじさいネットを紹介するためのイメージ画面としての利用に限ります。

あじさいネット画面より得られる診療記録内容を、ケースレポートとして発表する場合は、利用を希望される拠点病院に直接ご相談ください。

●● Secure Mail Serviceのご案内 ●●

Secure Mailは、あじさいネットの安全な暗号化されたネットワーク上で運用する添付も可能なメールサービスで、通常のメールでは難しい診療情報の遣り取りが可能となります。次年度より運用開始予定です。

Secure Mail Serviceにつきましては、実際にご利用できる環境が整いしだい、あじさいネットメンバーリストにてあらためてご案内いたします。

●● 参照画像に関するお知らせ ●●

あじさいネット登録患者数の増加および情報提供病院における画像診断装置の数的質的向上に伴い、あじさいネットで取り扱う画像データ量が飛躍的に増加してきました。

このため、画像サーバーの容量逼迫や画像転送速度低下などの問題が発生してきており、これらの問題を解決し会員の皆様の利便性を確保するため、平成25年10月28日のあじさいネット運営委員会において、あじさいネット上で取り扱う画像データ形式は原則としてJPEG形式とする事を決定致しました。

これまでHuman Bridgeを利用している一部の情報提供病院ではDICOM形式の画像データの利用も可能でしたが、今後はJPEG形式のみのご利用となります。DICOM形式をご利用頂いておりました皆様にはご不便をおかけする事になりますが、ご了承頂きますようお願い申し上げます。

●● WindowsXP ご使用の方へ更新のお願い ●●

マイクロソフトのWindowsXPをご利用の方も多いと思われませんが平成26年4月をもってWindowsXPのセキュリティサポートは終了いたします（*セキュリティサポート：インターネットを利用する際、ユーザーの脅威となるウイルス及びハッキングなどを防御する保守サービス）。

あじさいネットは、堅牢なセキュリティを担保したネットワークの維持を第一に構築されています。

つきましては、ご利用頂く会員の皆様が安心してあじさいネットをお使い頂けるようにWindowsXPをご利用の方は、出来るだけお早めにWindows7もしくはWindows8への更新をお願いする次第です。

変更の際は事務局にご連絡ください。あじさいネット接続ツールの再設定が必要となりますので、（株）NTTフィールドテクノ九州が対応に伺います。尚、設定費用が別途必要になります。

*あじさいネット利用端末に限らずあらゆるパソコンでの更新対応をご推奨いたします。



HOGY®

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



これからの「医療」を考えています。

Empowered by Innovation

NEC

地域に分散した診療情報を統合して共有するネットワークサービスで地域医療連携をご支援します。

NECの地域医療連携ネットワークサービス

まずはWebで、詳細情報を。

[NECの地域医療連携](http://www.megaok.com/) 【検索】

www.megaok.com/

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ

〒108-8001 東京都港区芝五丁目1-1(NEC本社ビル) TEL. 03(3798)6756

<http://www.nec.co.jp/>

人と地球にやさしい情報社会へ

Good Health Creator, MEDical+sciENCE

独自の事業スタイルを基盤として
ヘルスケア分野に新たな潮流を生み出します。

東日本大震災に被災された皆様に対し、速くお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心より祈り申し上げます。



□ 事業内容

- 臨床検査
(生化学的検査・血液学的検査・生化学的検査・微生物学的検査・遺伝子関連検査・病理学的検査・その他検査)
- 予防医学関連サービス
- 医療関連サービス
- 体外診断用医薬品・体外診断用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品・化学品の毒性試験・薬効薬理試験
- ヒト観察による薬効・毒性評価
- 遺伝子・タンパク質解析
- 医薬品・農薬・化学品・食品添加物・化粧品等における安全性評価・環境/リスク評価サービス
- 食の安全サポート
- ドーピング検査

三菱化学メディエンス株式会社

〒108-8559 東京都港区芝浦四丁目2番8号
TEL.03(6722)4000(代表)

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が **50,000 円** 必要となります。尚、初期設定費用として別途 **30,000 円** を承ります。

2. 利用料金

月々4,000 円（レセプトオンライン請求も希望の場合は **5,000 円**）と**年3,000 円**のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

*TV 会議システム及び、遠隔画像診断システムの回線のみのご利用の場合も同額の料金となります。尚、高品質遠隔画像診断システムでは別途診断料金がかかります。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ（NTT フィールドテクノ九州）が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。



入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内)担当：三浦、苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

編集後記

あじさいネットは今年度で 10 年目に入りました。地域医療再生基金のおかげもあり、あじさいネットのような ICT 医療連携は、全国各地に広がりつつありますが、我々の取組みのように、毎年コンスタントに利用施設が増え続けているものは少なく、ましてや初期投資が必ず必要になる情報提供病院が増えている地域は、ほとんど無いと思われます。長崎県は日本一離島が多い県ですが、すでに五島列島でも上五島病院と福江市の五島中央病院が情報提供病院運用を開始されていますし、壱岐市の 2 病院が、情報提供病院としての参加を準備中です。

同時に利用者も年々増え続けているのですが、参加者が増えれば増えるほどセキュリティ面のリスクは高くなります。小尾会長が年頭所感に書かれたように、今一度、「あじさいネット セキュリティルール」の再確認と厳守をくれぐれもお願いいたします。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 ajisai-project@nagasaki.med.or.jp
最新の情報は、HP をご覧ください。http://www.ajisai-net.org/

今回、あじさいネットを支えているお二人をご紹介しました。
O4 コマ漫画作者：詫摩和彦 先生 O
長崎市医師会所属
長崎在宅 Dr. ネット理事